

フル・フロンタル(FULL FRONTAL)

2003(平成15)年12月2日鑑賞(東宝試写室)

★★



監督＝スティーヴン・ソダーバーグ／出演＝ジュリア・ロバーツ／デヴィッド・ドゥカヴニー／キャサリン・キーナー／ブレア・アンダーウッド／ニッキー・カット／メアリー・マコーマック／エンリコ・コラントーニ／デヴィッド・ハイド・ピアース（東芝エンタテインメント配給／2002年アメリカ映画／101分）

……『エリン・ブロコビッチ』『オーシャンズ11』に続いて、スティーヴン・ソダーバーグ監督とジュリア・ロバーツのコンビ。しかし登場人物が多く、複雑な人間関係の絡みが次から次へと……。ああ、しんど……。会話を聞いているだけで疲れてくる……。

複雑でややこしい物語

事前にパンフレットを読むと、今夜、ビバリーヒルズの高級ホテルでは、映画プロデューサーのガス・デラリオ（デヴィッド・ドゥカヴニー）の40歳の誕生日パーティーが開かれる。この物語は、そこに集まる男女8名の業界関係者たちがぐり広げる24時間の物語だと説明されているが、何だかややこしそう。

物語の冒頭、8名の男女のプロフィールが紹介されるが、とても覚えきれない。そして展開されるストーリーはかなり複雑。登場人物達はみんなそれぞれに問題を抱えており、あちらでもこちらでもトラブルが……。だから登場人物はみんなよくしゃべる。そんなややこしい話が同時進行的にいくつも展開されるので、とにかくわかりにくいこと、この上なし。

ジュリア・ロバーツもちょっと……

ジュリア・ロバーツは、スティーヴン・ソダーバーグ監督と組んだ『エリン・ブロコビッチ』（00年）で念願のアカデミー主演女優賞を獲得したが、これはすばらしく楽しい映画だった。そして、次のスティーヴン・ソダーバーグ監督とジ

ユリア・ロバーツのコンビ作となったのは『オーシャンズ11』(01年)。しかしこれは、タイトルからわかるとおりのオールキャストだから、ジュリア・ロバーツはお飾り程度の扱い。

この『フル・フロンタル』も、とにかく登場人物が多すぎて、それぞれの人物達のストーリーを理解するのが大変だし、ジュリア・ロバーツの出番も少ない。『フル・フロンタル』とは、正面が丸見えのヌードという意味。そして登場人物達はストーリーの展開につれて、次々とその本性が明らかにされていくから、まさにこの映画にピッタリのタイトル。しかし残念ながら、面白さよりも疲れの方が先に……？

2003(平成15)年12月3日記

ミニコラム

オールスター戦は勝負か、お祭りか？

昨年、日本のプロ野球界は揺れに揺れた。「たかが選手」発言の渡辺恒雄オーナーは舞台から降り、新たなヒーローとして三木谷浩史氏が登場するとともにあの孫正義氏が大舞台におどり出た。今年のプロ野球は大いに楽しみだが、その「構造改革」は緒についたばかり。小学生時代、プロ野球のオールスター戦といえば、ワクワクしながらテレビにかじりついていたものだが、昔からオールスター戦は「お祭り」と言われており、勝負を度外視した選手同士の「対決」が目玉された。なかでも1971年の江夏豊投手による「9者連続三振」という快記録は前人未到のもので、そりゃカッコよかった。

他方、映画におけるオールスター戦

(?)はどうだろうか？オールスターが共演する「大作」は昔からたくさんあるが、私の評価ではそれらは総じてあまり成功していない。その理由は、映画では多くのスターが登場するとどうしても個人色が抑えられるため。勝負を二の次としたプロ野球のオールスター戦では多くのスター同士の真剣な個人対決を見ることができるが、映画では一定の上映時間内に多くのスターたちが登場すれば個人色が薄められるのは当然。だから、「オールスター映画はもう一つ……」と相場が決まっている。だとすると、現在公開されている『オーシャンズ12』の出来もいまひとつつかな……？